

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第15回学協会長会議議事録

開催日時 :平成 28 年 10 月 25 日(火)午後 3 時 00 分から 4 時 40 分

開催場所 :東京大学地震研究所 1 号館 2 階セミナー室

(東京都文京区弥生 1-1-1)

出席者 :

[学協会] 議長, 垠本尚義(日本地球化学会), 脇坂安彦(日本応用地質学会), 井上源喜(日本温泉科学会), 日比谷紀之(日本海洋学会), 山里平(日本火山学会), 宮本潔(形の科学会), 向山栄(日本活断層学会), 岩崎俊樹(日本気象学会), 榎並正樹(日本鉱物科学会), 森田喬(日本地図学会), 前田晴良(日本古生物学会), 小島紀徳(日本沙漠学会), 林歳彦(資源地質学会), 山岡耕春(日本地震学会), 町田功(日本水文科学会), 樋口篤志(水文・水資源学会), 宮嶋宏行(生態工学会), 島田秋彦(生命の起原および進化学会), 浜田康史(石油技術協会), 大畑哲夫(日本雪氷学会), 新谷昌人(日本測地学会), 今村隆史(日本大気化学会), 田村亨(日本堆積学会), 小野昭(日本第四紀学会), 高橋修(日本地学教育学会), 竹之内耕(地学団体研究会), 杉田文(日本地下水学会), 山崎俊嗣(地球電磁気・地球惑星圏学会), 小口高(日本地形学連合,地理情報システム学会), 渡部芳夫(日本地質学会), 村山祐司(日本地理学会), 海東達也(地理教育研究会), 野上道男(東京地学協会), 島田周平(東北地理学会), 濱本昌一郎(土壌物理学会), 篠原也寸志(日本粘土学会), 石郷岡康史(日本農業気象学会), 千葉昭彦(物理探査学会), 山室真澄(日本陸水学会), 北岡豪一(陸水物理研究会), 粟屋善雄(日本リモートセンシング学会), 田近英一(日本惑星科学会), 西弘嗣(地球環境史学会), 服部克己(日本大気電気学会)

[日本学術会議] 大久保修平(日本学術会議地球惑星科学委員会委員長)

[連合] 川幡穂高(会長), 田近英一(副会長), 中村正人(副会長)

(敬称略)

議事内容 :

1. 前回議事録確認

前回会議議事録を確認した。

2. 日本地球惑星科学連合活動報告

(1)2017 年連合大会準備状況報告(川幡会長)

2017 年連合大会の開催状況について川幡会長より報告があった。会期中の日程やスケジュール、開催会場について説明があった。2017 年大会開催日程は例年より一日多い 6 日間(土曜日から)の開催となること、「アイスブレイカー」や「International Mixer Luncheon」も予定に入れて準備を進めていることが報告された。

セッション提案については、当初の予想を大きく上回る、266 件の申し込みがあり大変好況であったことが報告された。

連合の今後の発展のために、加盟学協会との関係を密にすべく、学協会におかれても次回の代議員選挙に際し、代議員に立候補・推薦及び投票にむけて積極的に取り組まれることを期待する旨、川幡会長より説明があった。また、昨年に引き続き、日本地球惑星科学連合への寄附のお願いがあった。なお、寄附を頂きました皆様にお送りする領収書は、確定申告の際に「所得控除」の添付書類としてご利用いただけることが説明された。

(2)JpGU ジャーナルの進捗状況報告

PEPS(Progress in Earth and Planetary Science)の編集・出版状況について川幡会長より報告があった。ジャーナルは現在、順調な編集・出版を進めている。

トムソン・ロイターとエルゼビアに対し、ジャーナル評価指標取得のため、IF、Scopus の採録申請を行った。順調に受理されれば、2018年に付与される予定である。

PEPSに投稿された方を対象に外国人招待者のトラベルサポートを積極的に進めている。2017年度に開催予定の国際会議があれば、事務局か編集長にご連絡を、との紹介があった。

(3)団体社員の体制および規則について

連合の団体社員の体制変更に伴う規則の変更について、川幡会長より説明があった。

幹事会設置について、議論され、以下の内容を理事会に提案することとなった。

(3-1)規則について

- 1.学協会長会議規則(案)に目的を追記した規則を理事会で作成する。
- 2.法人運営基本規則の第8章から上記1の学協会長会議規則を参照できるようにする。
- 3.法人運営基本規則の第8章、「学協会長会議」に幹事会について記載する。

(3-2)申し合わせについて

学協会長会議幹事会の運営に関する申し合わせ(案)を理事会と学協会長会議で作成する。

(3-3)幹事会メンバーについて

第7回理事会(3月開催)までに前議長(海洋学会, 日比谷会長)と現在の議長(地球化学会, 塚本会長)とで検討し、年内を目標にまとめる。

(3-4)理事会へのリクエストについて

- 1.規則か申し合わせに、理事会へのオブザーバとしての幹事会の意見を尊重する、という内容を記載することが求められた。
- 2.幹事会について規則に記載する。

3. 日本学術会議の近況報告 (日本学術会議地球惑星科学委員会 大久保委員長)

(1)日本学術会議のこれまでの活動

大久保委員長より、日本学術会議の活動報告があった。大型研究計画の選考について、防衛装備庁の安全保障技術推進制度に対する対応、次期の会員・連携会員の選考、電子ジャーナル問題、原発事故等による放射性物質の移流・拡散、分科会の活動について、それぞれ報告があった。

4. その他

(1)日本気象学会、岩崎会長より、「原子力関連施設の事故に伴う放射線物質拡散に関する作業部会」の活動について報告があった。日本学術会議での公開シンポジウムが行われるなどの報告があった。

(2)地球化学会、塚本会長より、6月26日から7月1日に開催された「ゴールドシュミット会議 2016(横浜)」について、報告があった。参加者は69カ国から約3740名にのぼり、盛会であった旨が報告され謝辞が述べられた。

(3)日本古生物学会、前田会長より、「熊本・大分地震で被害を受けた地域博物館の支援」について報告があった。連合から発出した支援に関する声明への御礼と、まだ引き続き支援を必要としている地方自治体の博物館、民間の資料館、への支援を今後お願いしたく、現在、日本地質学会とどの程度支援が必要なのか等を、調査中であることが説明された。今後、具体的な案がまとまり次第、報告されること、また、その際には皆様のご意見とご支援をお願いしたいという報告があった。

以上